



柳 沢 浩 一

県内で玉村町だけ2学期制

今後も継続するのか

町 定着しているので、今後も続けたい

Q 玉村町は、県内ただ一つの2学期制の実施自治体となった。今後どうするか。

〈教育長〉 当町だけになったが、2学期制の良さを生かし、今後も継続していきたいと考えている。

Q 平成18年に始まり、現在に至っているが、良さ・メリッとはどんな点か。

〈教育長〉 週休2日制の導入によって減った授業時間の確保、半年という長いスパンで捉えた的確な学力の向上が図れることである。

Q しかし、心配なこともある。長い歴史と伝統ある3学期制は、変化ある四季

折々の情緒ある光景とともに、脳裏に深くしみついている。保護者や町民の間にも不安があるのではないか。

〈教育長〉 今後は、運動会の時期をずらすなどして対応し、また子どもたちがみずから手で生きる力を身に

つけるような2学期制を、今後もさらに充実させていきたい。

Q 盟主である高崎市とともに2学期制に踏み込んだ他の市町村は、早々に撤退した。高崎市、玉村町が残ったが、最後の2学期制の自治体となった今、改めてその心境を問う。

〈教育長〉 今後は、教育行政方針の中に「2学期制の良さを生かす」ということを明記し、関係各方面の意見を参考にしながら邁進したいと考えている。



運動会も、暑い時期を避けて実施

安価で人気のある特養施設を増床せよ

町 町全体の計画として検討したい



島 田 榮 一

Q 「特別養護老人ホームにしきの園」は平成24年3月、50床を70床に増床した結果、サービス面でも経営的にも大きな成果を上げている。それでも平成25年3月31日現在の待機者数は166人である。なぜそれほど人気があるかといえば、サービスが行き届き、利用料が安いからである。待機者解消のためにも、あと20床増床すべきではないか。

〈町長〉 「にしきの園」の待機者数については、町全体として引き続き需要の把握に努める。平成27年からの第6期事業計画において、県の整備計画との整合性が図れるよう、町全体の計画として検討していきたい。

Q 第4保育所が新築移転した後の跡地利用をどのように考えているか。

〈町長〉 駐車場不足を解消するため、当面は駐車場としての利用を考えている。一方で、役場周辺地区高度利用計画の検討過程において、「障害者福祉センターたんぼ」の移転案も出てきて



三友美恵子

通級教室の充実と

文化センターの計画的な改修を求む

町 施設の充実は不可欠であると考えている

Q 通常の学校に在籍しながら障害

に応じて別の学校や教室で授業を受ける「通級教室」の視察を、3月に文教福祉常任委員会でを行った。また神奈川県川島の平塚市に新しくできた通級教室も視察した。大変素晴らしい施設と先進的な指導が行われていた。視察を通して、改めて玉村町では、きめ細かな教育がなされていることに感心した。しかし、ここ数年の通級児童の増加により、施設が手狭になってきていると思う。施設の充実を求めている。

〈町長〉 玉村町ではきめ細かな教育が行われ

ているが、それに見合う施設が必要であると認識している。役場周辺の高度利用計画の中で検討していく。

Q 現在玉村町は、小学校卒業と

もに「通級教室」を退級しなければならぬが、中学校でも通級指導が必要ではないか。

〈教育長〉 中学校の通級指導は考えていく必要がある。教育委員会で検討していく。

Q 文化センターは、第5次総合計画

で「玉村町の生涯学習の拠点施設である」と明示しており、その役割は十分果たしていると思う。しかし今年度で開館20周年を迎え、時代の流れとともに利用状況も変化している。今後20年後を見通した改修計画を求めている。

〈町長〉 文化の発信の地である文化センターのあり方を、20年後を見通して、研究していく必要がある。

玉村町通級教室



いる。町全体としての公共サービスのあり方を、総合的に検討していきたい。

Q JAしばね支店や旧芝根小学校跡地周辺

は、芝根地区の心のふるさとである。歴史的景観を含め、この周辺を福祉ゾーンとしてどうか。

〈町長〉 十分検討してみた



増築になった「にしきの園」